

## 四川大地震の中国株式市場に及ぼす影響について

### 要約

- I. 5月12日、四川省で発生した大地震は、短期的には相場下落の要因となる可能性があります。今回の地震がインフレにどのような影響をもたらすかは不透明ですが、四川省の農産物の出荷が減少すれば、インフレ圧力に拍車をかける可能性もあります。
- II. 人民銀行はインフレ抑制のために預金準備率を0.5%引き上げて16.5%としました。実質金利(名目金利－インフレ率)は未だマイナスのままですが、世界経済の減速が懸念されていることもあり、政府は難しい金融政策の舵取りを迫られると見られます。
- III. 中国株式市場は短期的には不安定な値動きが続く可能性がありますが、中国株式市場を取り巻く底堅いファンダメンタルズ(基礎的諸条件)に変わりはありません。

5月12日、四川省で発生したマグニチュード7.9の大地震は、既に10,000を上回る人命が奪われるという大惨事となりました。地震による被害の全容は未だ明らかとなっておりませんが、被災地の不安を少しでも取り除くために政府は迅速な対応に注力しています。地震は電力設備や送電線を損傷し、電力供給に支障をもたらし、既に広範にわたって経済活動に支障が出ています。今回の地震により、少なくとも短期的には、株式市場では値動きの不安定な展開が続く可能性があります。

12日の取引時間終了後に、人民銀行はインフレ抑制の一環として、大方の予想通り、預金準備率を20日から0.5%引き上げて16.5%にすると発表しました。2008年第1四半期のGDP(国内総生産)は前年同期比+10.6%と力強い成長を示しました。また、4月のCPI(消費者物価指数)は、エネルギーや食品価格の高騰を背景に前年同月比+8.5%となりました。

注)当資料最終ページの『当資料のお取り扱いにおけるご注意』を必ずお読みください。

中国政府は、預金準備率の引き上げにより銀行の貸し出しを抑制し、流動性の伸びを抑え、国内金融市場の安定化を目指しています。今回の預金準備率の引き上げは銀行の収益力に大きな影響を及ぼすには至らないと見られます。最近の決算(招商銀行(China Merchant Bank)等)を見る限り、利鞘の拡大や手数料収入の増加を背景に、銀行の収益力は向上しています。

実質金利(名目金利－インフレ率)は未だマイナスですが、政府は利上げ策によらず預金準備率の引き上げにより引き締め策を図るものと見られます。世界経済の減速を踏まえ、政府は今後発表される経済指標を確認しつつ新たな策を講じると思われますが、今回の大地震災害が加わったこともあり、当面、難しい金融政策の舵取りを迫られるものと見られます。

今回の大地震は大変痛ましいことですが、私どもはこれによって中国株式市場を取り巻く底堅いファンダメンタルズ(基礎的諸条件)が変わったとは考えておりません。2008年第1四半期の企業決算でも明らかとなったように、収益は引き続き力強い伸びを示しており、各社とも強気の利益見通しを立てています。株式市場は既に昨年の最高値から大幅に調整しましたし、H株及びA株ともにバリュエーション(株価評価)面からみた割高感はかなり払拭されました。食品価格の高騰が収まれば、インフレも年後半には落ち着きを取り戻すものと見られます。これらにより、今年の株式市場は下支えされると見られます。

注:本レポートは HSBC Investments (Hong Kong) Limited の 2008 年 5 月 14 日現在の情報をベースにしています。

**当資料のお取り扱いにおけるご注意**

当資料は、HSBC投信株式会社(以下、当社と言います)が情報提供を行う目的で作成したものであり、特定の投資信託等の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料は法令に基づく開示書類ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料に記載された市場の見通し等は作成時点での当社の見解であり、今後予告なしに変更されることがあります。また、当資料に記載された当社の見解等は、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。